

# ジャグパル

JugPal

2007年5月5日 第38号



## インタビュー

【 JAY さん 】

今回はハットジャグリングの第一人者でシリウス (SIRIUS)のメンバーとしてもお馴染みの「JAYさん」の登場です。

ちなみにJAYさんとうやうや一緒にお酒を飲むのは実に7年ぶり(ジャグパル8号参照)ですが、相変わらずダンディでカッコイイ！



JAY さん

### マイムとの出会い

映画「天井桟敷の人々」のジャン・ルイ・バローのマイムを見て、(マイムを)とりあえずやってみたくなっただけです。

それまで表現活動的なことは何もしていなかったし、マイムで何かをしたいとか、どうのこうのとかではなく、とにかくやってみたくなっただけです。

チャップリンとかは好きでテレビでよく見ていたけれど、「天井桟敷の人々」がとどめとなってマイムとはどういうことなんだと経験したくなり、1988年に「東京マイム研究所」に入りました。

### マイムを始めて

確かに先輩たちが練習しているマイムを見て、生で見るのは初めてだったせいもあり、「うわっ、凄い！」という衝撃は受けたけれど、技術的なことはすぐに習得することができました。でもその後は技術的なことより、マイムで何を表現するのか悩み、ソロ作品を作ってみたりはするもののどうしていいのかわからず、マイムで何を追求すべきかわからず、不満みたいなものを抱えていました。

### SIRIUS誕生

物事が動き始めたのは濱村典正さんと出会ってからです。

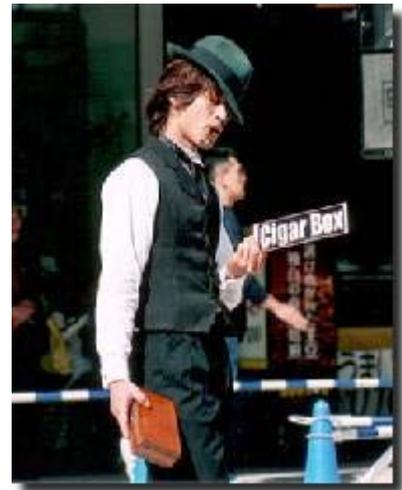
既にパフォーマーとして活躍されていた濱村さんの公演を観たり、お手伝いをしたり、あるいは「チョコレートファクトリー」という団体に一緒に出演させて頂いたりして、濱村さんが「次は何をしようか」と考えていた時に、そばにいたやる気ある若造(JAYさん)が目にとまり、一緒にやるかと声をかけてくれたんです。

それがSIRIUS(シリウス)誕生のきっかけで、1995年に結成しました。

## 帽子との出会い

SIRIUSのパフォーマンスは、基本的に演出や選曲などほとんどは濱村さんが担当していて、最初の頃は自分のシーンがない中で、現場をこなしながら試すような感じで、ちょっとずつ帽子やステッキの演技を一人で見せ始めていました。

帽子とかステッキを選んだのは、身につけている物でやってみたらどうかと濱村さんが勧めてくれたんです。「身につけている物」というのは僕自身同感だし、既に上手い人がいるボールやクラブをあえて取り上げるという選択肢はなかったですね。



## ハットジャグリング

ハットジャグリングをやり始めて、帽子探しと帽子のケアは大変でした。帽子は変化し続けるし、融通が利きません。

例えばDubeのダービーハットを買ったとすると、当初は固いけれど使い続けるとどんどん柔らかくなり、柔らかくなってしまってもう同じ感覚では使えません。毎回新品を買うわけにはいかないし、また新しければ良いというものでもなく、こなれて使いやすい時というのはほんのわずかの間なんです。

常に使いやすい状態を維持するにはどうすれば良いか、帽子職人に相談したりいろいろ手を尽くしましたが、結局は試行錯誤して自分で帽子を作ることにしました。

自作するにあたり、買ってきた帽子を分解したり、職人から素材を教えてもらったりと散々苦労して、市販の帽子を幾つか重ねたりし、その他工夫を施し自作しています。

格好良い”絵づら”としてハットをやりたいので、見た目を重視して、ジャグリングショップで扱っている帽子よりも、見た目の良い市販の帽子を選んで改造することにしました。

ボールやクラブとは違って帽子は年月を経て感触が変わるから、どう維持していくか、帽子で一番大変なのはそういったケアなんです。

始めてみたはいいけれど、そのケアが大変なので続かない人が多いのかもしれないですね。でも帽子はアクセントでやるのもいいなって思うんです。ちょっとした時にアクセントとして帽子をやって、その後演技に入るっていうのもいいなど。皆に是非やってもらいたいですね。

帽子はとても大変だけれど、僕にとっては使いこなせるその喜びの方が大きかったです。



## 練習について

当時全く情報がない中、アンディ・ヘッドのビデオで研究し、トリックを習得するのは練習あるのみで一日8時間は練習したかな。

帽子を投げるのは(その軌跡を)自分で見ることができるからいいけれど、例えばアームからアームへ転がすのは帽子の状況が分からず、つまり何処をどう転がっているか見えないので、食器棚のような高い位置にビデオをのせて、帽子が転がる様子を録画して研究していました。

今の練習は基本的な動作を確認した後、あまり考えずに鏡に向かって思いついたことを始めるんです。

基本的にはダービーハットとトップハットを使いますが、ダービーハットは何か(技)が生まれやすく、その技がものになった時点で演技のルーティンの中でどう使うかを考えるわけですが、この鏡の前での練習は楽しくてしょうがないです。

また大きな舞台が終わった後にアイデアがポッとたくさん出てくるんです。例えば技とか見せ方とか小道具とか。そういったアイデアが使えるかどうかは別としてわき出るのはそういう時、つまり舞台の直後の時が多いんです。そういう意味で舞台後の練習は充実しているかな。

### マイムとの関わり

普段ショーではマイム自体を演目としては演じないけれど、マイムの有り様(ありよう)とかジャンルとしてのマイムって何だろうとよく考えたりします。

舞台の上ではダンサーは踊っていないなければならないけれど、パントマイミストは舞台にいることができる…なんて言うか個として存在していただけるというか、観客から見られているという状況下でも何もしないでいられる、そんな身体になれるんです。空気感の中に存在できるというか。

マイムを習ってそんな感覚が養われたし、無声映画などで見られるマイムのどこに惹かれるのかというと、それはセリフがないのに仕草や立ち振る舞いや表情での表現であって、それは今でも好きですね。

自分で散々いろいろとやってきた割には、この職業向いているなあと思ったことはあまりないし、舞台に立ったり、人前で演じたりするなんて想像もつかなかったことで、やりたくてやりたくてやってきた訳ではないけれど、マイムはやりたかった。マイムをやっていてこうなっちゃった、という感じですね。



### これから

今は比率としてはイベントや大道芸の方が多いいけれど、この前の「四十雀(プログ風アート見物記参照)」で舞台は面白いと再確認したこともあり、(舞台について)少し比重を増やしていきたい気持ちはあります。同じものをやり続けているとネガティブな意味ではなく、飽きて物足りなくなってくるということもありますし。

また喋らない芸風なので、喋らないことで伝えられるものが何かを探っていきたいし、つまり喋らないからじゃあどうするのか...そこを深めていきたいと思っています。



<JAYさんのWebサイト>

[http://www.geocities.jp/hatjuggler\\_jay/index2.html](http://www.geocities.jp/hatjuggler_jay/index2.html)

<JAYさんのブログ>

<http://hjj.blog89.fc2.com/>

[安部 保範]



## ブログ風アート見物記

【1月～4月分】

ニューイヤーコンサート (1月7日/横浜市栄区文化センター リリス)

フランツ・リスト室内管弦団にソリストとして前橋汀子さん(ヴァイオリン)と幸田浩子さん(ソプラノ)を迎えてのコンサート。フランツ・リスト室内管弦楽団はブタベストの名門フランツ・リスト音楽院の同窓生によって創設された楽団で、今回ニューイヤーコンサートとあって初春を飾るにふさわしく華やかで楽しい気分になれる、そんな聞き覚えのある曲の数々で構成されていました。リスト、エルガー、クライスラー、モーツァルト、J. ストラウス、ブラームス…いいですねあ～。

フェリア・ミュージカ「蝶のめまい」(1月18日/川崎CLUB CITTA')

ベルギーのコンテンポラリー・サーカス・カンパニー「フェリア・ミュージカ」の作品。舞台の左右、前後そして上下にと絶え間なく展開されるスピーディなダンスと、その流れを損なうことなくシンプルではありつつも固唾を呑むサーカスアクトの数々、そしてそれら演技に溶け込んだJAZZYな生演奏…雰囲気あるそのステージに完全に引き込まれ、気づいた時にはエンディングを迎えていました。

オブジェ・ヴォラン「サークル+透明+コントロールポン」(1月19日/横浜BankART Studio NYK)

フランスのヌーヴォー・シルクを代表するジャグラーであるドゥニ・ポミエさん率いるカンパニー「オブジェ・ヴォラン」の作品。出演はドゥニさんとシルヴァン・ガルナヴォルトさんの二人。様々なユニークな道具によるジャグリングが次々と繰り出され、お二人によるテイクアウェイのこんなにも種類があるのかと驚くほどのパターンの数々、あるいは3Dアニメ映像によるありえないジャグリングの動き(これにゃあ笑いました)等々…アイデア満載の舞台作品で特にマニアにはたまらないことでしょう。一方どうしても珍しい道具やそれらを使用したトリックの奇抜さに目がいきがちになり、作品のコンセプトが伝わりにくいとも感じました。でもよくあれだけ思いつくよなあ、と感心しきり。

フェリア・ミュージカ「蝶のめまい」(1月20日/川崎CLUB CITTA')

二回目の鑑賞。いや～とにかくパフォーマーの動きには驚くばかりです。公演中目一杯、絶え間なくあれだけ動けるとは相当の練習を積んで鍛錬していることでしょう。衣裳も素っ気ないほどシンプルでそれがまたお洒落だし、舞台も独創的で、トランポリンが見えないようになっていて、突然演者が消えたり宙を舞に舞い上がったり、かつ舞台前面は滑り台のようになっていて演者がそこを滑ってまるで観客席に飛び込んでくるようで、とにかく舞台空間全てを使い切った演出にはまさに「めまい」すら覚えました。

武漢雑技団「中国英雄列伝」(1月26日/東京国際フォーラムA)

雑技自体は雑技ならではの集団演技が主体でどれもこれも素晴らしかったです。爬竿、綱調、鎖闘、跳板、排椅、頂碗、皿回し、麦藁帽ジャグリング、ディアボロ、水流星…どれをとっても！一緒に行った女性たちは雑技を見るのが初めてで、思い切り歓声奇声をあげていましたが、初めてだったら無理ないです。ビックリ仰天モノですから。でも演目毎に中国の英雄を比喻するという演出は今ひとつピンときませんでしたが、雑技という素晴らしい芸術を世界市場にどう売り込んでいくのか、その苦心の一端を見た思いがします。

四十雀 (2月16日/内幸町ホール)

ダメじゃん小出さん、ジャグラー健三郎さん、JAYさん、サンキュー手塚さんと、仲の良い四人が集まったの舞台。とても良かったです。一人一人のネタを単に羅列するような舞台ではなく、四人の個性がそれぞれに絡み合っただけでも楽しかった。JAYさんがインタビューの時に「四人だから"四重奏"みたいなものを盛り込んで、ただの仲良し公演では終わらせられなかった。」と仰っていましたが、最後の作品「思いIDEメンテナンス」にはその思いが如実に表れているような気がしました。一人ではやらないこと・やれないことが、四人集まるとこういう形になるんだとこの舞台が証明してくれたようです。ちなみに皆さんそろそろ40才を意識するお年頃だから、「四十雀」というタイトルに引っかかっているのかと思いきや関係なかったようです。ごめんなさい。

のだめオーケストラコンサート 第2弾～アニメ版～ (3月2日/東京国際フォーラムA)

舞台上の大型スクリーンに映し出されたアニメと相まって、「のだめカンタービレ」でお馴染みの曲がオーケストラによって次々と演奏されます。主題歌を演奏しているSUEMITSUさんやマンガース(註)の着ぐるみも出てきて場内大盛り上がり。ちなみに我が家ではまだ「のだめ」ブーム健在なり。

(註)コミック「のだめカンタービレ」5巻25話で初登場。桃ヶ丘音大の学園祭(前夜祭)でSオーケストラの演奏会で「のだめ」が自作の着ぐるみ(マンガース)を着て、ピアノでラブソディ・イン・ブルーを演奏。

マジックバー「八時」(3月5日/四ツ谷荒木町)

去年姉妹店の「十二時」に引き続きのマジックバー探訪。マジシャンが二人(鬼喜王子さん、飛鳥京さん)と「十二時」に比べてちょい寂しかったけれど、お店の雰囲気は良いし三時間たっぷり楽しめました。

SOUKI「田原町ライブ！part4」(3月12日/田原町スタジオ aRt/Pit)

パントマイムを中心に多種多様な表現法による身体表現追求するパフォーマンスグループSOUKIのスタジオライブ。まさしく作品数にして二十近くの多種多様なパフォーマンスを見ることができました。特に印象に残った方をあえて一人あげるとすれば「小塚里江」さん。とてもとても気になるキャラです。JAYさんとのコンビでジャグリング、バンドでのギター演奏、マイムソロ。それぞれに何とも言えないフシギ～な世界観を放っていました。

シルク・ドゥ・ソレイユ「ドラリオン」(3月20日/原宿・ビッグトップ)

(日本公演が実現したことで)ようやく見ることができました。でもテレビ局による事前の宣伝番組が多すぎて、露出度が高すぎたせいもあるかもしれませんが、内容的には予想以上でも以下でもなかったです。あっ、もちろんベリーベリー楽しかったです。楽しくないわけがない！ところでトランポリンと縄跳びというのもすっかりサーカスの定番メニューになったようです。

清水ミチコのお楽しみ会2007(4月6日/草月ホール)

デビュー20周年記念公演だそうです。ミチコさんが「この20年間で私のライブ来たのが初めての人？」と聞かれて手を挙げた人に「20年間何やってたのよお！」と叱っていました(汗)。確かに、こんなに面白いライブに何で今まででなかなかだったんだろう。とにかくレパトリーの広さには驚かされます。団塊の世代が涙するような古い曲から現在ヒットチャートを賑わしているような最新の曲まで、ミチコさんならではの独特な切り口のものマネにかかれば大爆笑！また交友関係の広さを物語るように各方面から有名人が続々と会場に足を運んでいるようです。この日も何人かの売れっ子芸能人を発見してミーハーの私は得した気分。

バルーンおやじと戯れる会(4月13日/某会社の会議室 ^\_^)

会社で有志数名にバルーンを教えているのですが、今回「バルーンおやじ」こと南芳高さんを招待して特別講師してもらっちゃいました。女性社員4名を含む華やかな会となり「アンモナイト帽子」を皆で製作。数時間かかって完成した時には疲労困ぱいでしたが、女性陣は南さんに似顔絵も描いていただき満足の日でした。(南さんの似顔絵は絶品ですゾ)

PE'Z REALIVE TOUR 2007(4月14日/日比谷野外大音楽堂)

今一番ハマっているアルバムがPE'Zの「起きて寝る」。いいわぁ～(\*^\_^\*)、コレ。で彼らは現在このアルバムを引っ提げて日本中をツアー中ですが、わたくしめ同じくPE'Zファンの娘と日比谷野外音楽堂で一番星に見守られつつライブを楽しんじゃいました。まるでちょっと昔の流行の歌謡曲のように一緒に口ずさみそうになるメロディアスな曲から、アバンギャルドなジャズ風の曲まで、様々なジャンルに影響を受け、吸収しているであろう彼らの音楽はびっくり箱のように何が出てくるかわくわくしますし、各々のソロ演奏のスリリングさには鳥肌が立ちます。。

ヨコハマ大道芸(4月21日)

息子が入っている大学のジャグリングクラブが出るので、親バカではありますがビデオとカメラ持参で見ました。天気は良かったけれど風・・・風が強くシガーボックスやクラブなどは演技になっていなかったけれど、メンバー全員は最後までめげずに笑顔を決やさず頑張っていました。息子が園児の時に幼稚園のお祭りで私がジャグリングを披露して、今その彼が路に立ってジャグリングをしているとは・・・いやはや不思議な気分です。時の経つのは早いものだ。

インドのイシャムディーンさんのマジックは、あまり真面目に真剣に見るものではなく、妖しさという雰囲気を楽しむものですね。伊藤佑介さんのケン玉は久しぶりですが、おっ！道具からしている工夫していて感動もの！ミモザさんも久しぶりだけれど、さすがですねえアホらしくも抜け目ない流れは、(^-^)

ヨコハマ大道芸(4月22日)

また息子の演技を見に行っちゃいましたが、昨日よりもさらに風が強く最悪のコンディション。まあとにもかくにもお疲れさまでした。

アパッチさんは久しぶりですが、ますますパワーアップしていることに驚き。緩急のメリハリがあり演技に全くスキがなく、作品の完成度が高く、キザっぽくしているけれど嫌みさが全くないところは以前と同様で、プロフェッショナルとしての自信がみなぎり貫禄さえ漂ってますねえ。

シルク・ドゥ・ソレイユ「ドラリオン」(4月29日/原宿・ビッグトップ)

GWということもあり超満員！場内は大いに盛り上がり、一緒に行った息子はスゲーッスゲーッと喜んでいましたが、私が今ひとつのれなかったのはなんでだろう？

[安部 保範]



## イベント情報

### 【堀の外のジャグリング】

公演名: 堀の外のジャグリング - JUGGLING STYLE#2 -

公演日: 6月15日(金) 15:00 ~ / 19:00 ~

6月16日(土)14:00 ~ / 18:30 ~

いずれも開演は30分前

公演場所: 門仲天井ホール <<http://www5f.biglobe.ne.jp/monten/>>

出演者: オオツカタカシ, ジャグラーター, CHIKI, 目黒陽介, 矢熊進之助

(ゲスト) チクリーノ

料金: (前売り) 2,500円 / (当日) 3,000円

予約・問い合わせ: にちゅうまる企画 <<http://nidyumaru.com>>

主催者よりコメント

ジャグリングはおもしろい。ジャグリングの何をおもしろいと思うのかは、ひとそれぞれかもしれませんが、そこがまたジャグリングのよい所だな、と思います。

「堀の外のジャグリング」には、ジャグリングの色々なおもしろエッセンスがちりばめられています。観る人それぞれに「ジャグリングの新しい面白さ」を発見できる公演です。

「ジャグリング」という城から、堀の外へと飛び出して、独自の道を進む五人のジャグラターの姿を、ぜひぜひのしみに来て下さい。



### 編集後記

こんな私でも年に何回かはイベントでのパフォーマンスやバルーンデコレーションを頼まれたりしますが、十年以上も続けていると、自分なりのやり方が収まるどころに収まるっていう感じです。

#### 1. 地元で演じる。

地元とは、車で移動して20分圏内くらいかな。昔から地域密着志向でしたが、それでも浮気心が働いて泊まりがけで他県まで出かけたこともありましたが、でも毎年同じイベントで声をかけてくれてスタッフの方々とも仲良くなったり、散歩していてイベントで一緒だった顔見知りの方と立ち話したり、あいにくこちらは顔を覚えていないのに(スタッフの方から)「この前はお世話さまでした。」と挨拶されたりと、地元の活動ならではの心地よさに満足しています。本音的には、イベント当日忘れ物があってもすぐに自宅に取りに戻るし、半日で行って帰ってこれるから好都合なんです。地元だと。

#### 2. 頻度は月一回程度。

会社勤めしていて、あくまで趣味の範囲ですから、頻度的には月一回くらいが妥当かと思っています。あくまで趣味なんだから生活において時間的、金銭的な負担になっちゃいけません。本音的には、そんなにお呼びがかからないし、(頻度が多いという理由で)断ったケースは今まで無いのが実情です。はい。

#### 3. ギャラは相手方に一存。

公的施設や町内会などほとんどの場合、相手方のフコロ事情は察しがつくし、こちらも楽しみでやっていることで、それよりスタッフの皆さんと一緒にバルーン膨らませたり、お茶したりと他にも十分楽しんでいるので、ギャラに関しては材料費さえ頂ければそれで十分です。本音的には、貰えるものは貰った方がやっぱり嬉しいけれど、お金を頂戴できるほどの芸ではないのを自分なりに承知しております。はい。

ジャグパルは私という個人が野次馬根性丸出しで、単なる趣味として発行して、特定の企業、団体あるいはパフォーマー個人に関係しているものではありません。

編集発行人: 安部保範(神奈川県横浜市栄区 在住)

Webサイト: JugPal <<http://www.chansuke.net/jugpal/>>

見世物広場 <<http://www.chansuke.net>>

E-mail: [misc@chansuke.net](mailto:misc@chansuke.net)